



輝く介護

第 33 号

2017 年(平成 29 年)
2 月 15 日発行

中江

発行: 鎌倉市高齢者いきいき課介護保険担当

TEL. 0467(23)3000(代) FAX. 0467(23)7505

編集: 特定非営利活動法人 かまくら地域介護支援機構

〒247-0061 鎌倉市台 2-8-1 台在宅福祉サービスセンター内

TEL. 0467(46)0788 FAX. 0467(46)0059

http://www.kamashien.com e-mail jimuk@kamashien.com



医療と介護・福祉 連携の取り組みをすすめています ～よりよい高齢者介護のために～

鎌倉市内に 10 か所ある地域包括支援センターで組織する連絡会では、市と課題の解決に向けて幾つかの委員会を設置し活動しています。

その一つ「医療福祉連携委員会」では、高齢者を取り巻く医療と福祉、特に介護関係事業者などが「医療福祉連携会議」を年 3 回開催し、提供された事例を基に、お互いの役割を確認しながら連携を深めています。

会議のきっかけ

平成 24 年度に、市と地域包括支援センター連絡会で、市内にある入院施設を備えた 12 病院の、メディカルソーシャルワーカー(医療相談員)や退院支援看護師を対象に、退院後行き場の見つけづらい高齢者の退院支援について、聴き取り調査を行ったことがきっかけです。多職種で顔の見える関係を作りたいという思いで、平成 25 年度に会議は始まりました。

会議では

平成 27 年度は、主任ケアマネジャーの方から、病院・医療・介護の連携において課題があった事例、連携に苦心した事例などを提供していただき、その事例を切り口にして、医療と福祉、介護関係事業者とのより良い連携について話し合いを行いました。その他には、鎌倉市消防本部から救急搬送の現場の担当者と呼んで、消防本部との連携についてグループワーク・意見交換を行い、年間を通して日頃の事例をもとに、より望ましい支援の方法などについて検討しました。

平成 28 年度には、鎌倉市の共通様式である「入退院時情報提供書」の有効な利用、活用について議論し、患者や介護サービス利用者が、安心して在宅生活を送れるための支援方法などについて話し合いました。また、訪問看護ステーションからの難病の方の事例を基に、多職種が自分の職種ではどのような関わりができるのかなどについてグループワークをしながら共有することができました。鎌倉保健福祉事務所にもご協力いただき、介護者に対する支援も含めて高齢者が住みなれた地域でいつまでも暮らし続けられるための仕組みづくりに取り組んでいます。

会議に参加して

鎌倉ケアマネ連絡会では、地域包括ケアシステム構築に向けて行政・地域包括支援センターとの連携・ネットワーク強化を図り、広く市内のケアマネジャーに情報発信を行っています。

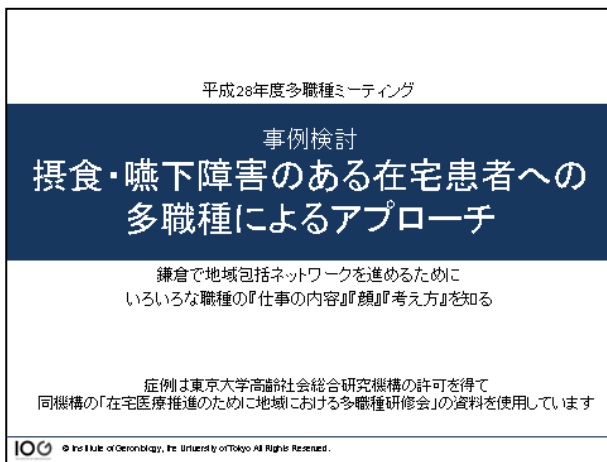
その取組の一つとして、今年度も医療福祉連携会議に出席させていただきました。多職種での話し合いの中で改めて理解できることも多く、他の制度との連携の組み合わせができ、情報の広がりができる有効な場であったと実感しております。

【鎌倉ケアマネ連絡会】

多職種ミーティングで広がる「顔の見える関係」づくり

平成 29 年 1 月 23 日と 24 日に、「多職種ミーティング」を開催しました。両日とも参加者は 100 人を超え、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、ホームヘルパー、介護施設職員、鍼灸マッサージ師、福祉用具事業者といった、「多」職種にわたりました。

「多職種ミーティング」は、医療や介護に携わる人たちが垣根なく、お互いの仕事や考え方について話し、顔の見える関係をつくることで、地域での医療・介護の連携をスムーズにすること（在宅医療介護連携推進）を目的に開催しています。本年度で3年目を迎えました。



← 今年のテーマは、「口から食べることが難しくなっている方を、どう支援するか？」
1時間のグループワークは、あっという間に過ぎます。



多職種ミーティングの様子

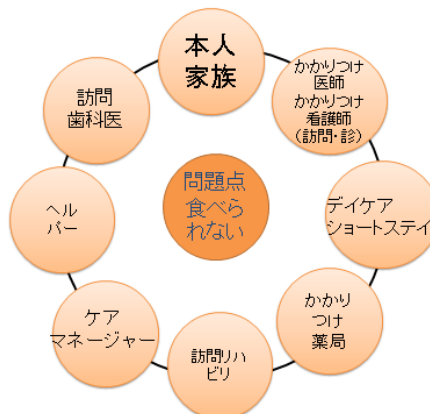
講師の宮下医師曰く

「在宅医療介護連携は、ポンディング®だ！」

問題の解決に向け、介護される方を中心にチームが構成されるのではなく、介護される方や家族もチームの一員となり、問題点を中心に据えて、解決のために知恵と力を出し合うという考え方です。問題が変われば、新しい**ポンディング®**が生まれます。

そこには、誰の意見が強い、弱いという力関係は存在しません。お互いに意見を交わしながら、一緒に悩み、考えていける関係があるからこそ、実現するのです。

ポンディング®発見！



来年の多職種ミーティングでは、どんなポンディング®が生まれるのでしょうか？